平野義太郎（ひらのよしたろう）評論家。明治二十年三月五日東京生れ、昭和五十五年一月八日歿（一八九七―一九八〇）。大正十年東京帝國大學法學部卒。十二年同大助教授、昭和五年治安維持法違反に問はれ退官。七年野呂榮太郎等と『日本資本主義發達史講座』全七卷（昭和七年五月二十日―八年八月二十六日岩波書店）を編輯。十一年檢擧、その後太平洋協會で活動。戰後は民主主義科學者協會、自由懇話會、日本學術會議等の會員、中國研究所所長。

著譯書に『日本資本主義社會の機構（史的過程よりの究明）』（昭和九年四月二十日岩波書店）、『善選・土地國有論の父中村太八郎傳』（編、昭和十二年十一月五日中村々り刊）、ウィットフォーゲル著『支那社會の科學的研究』（宇佐美誠次郎共譯、昭和十四年四月二十五日岩波書店「岩波新書」）、方顯廷著『支那の民族產業』（編、昭和十五年十月五日岩波書店「東亞研究叢書」）、『米國の世界戰略』（合著・大東亞戰爭調査會編、昭和十九年五月二十日每日新聞社）、『民族政治の基本問題』（昭和十九年八月十五日小山書店）、『大東亞の建設』（合著・大東亞戰爭調査會編、昭和十九年十一月十日每日新聞社）、『日本勞働運動の序幕と展望』（昭和二十一年二月二十日生活社「日本叢書」）、『近世民主主義の史的展開』（昭和二十一年二月二十日朝日新聞社「朝日新書」）、『中國の日本觀』（合著・中國研究所編、昭和二十三年二月二十日潮流社）、『野呂榮太郎の回想』（合著・大學新聞連盟編、昭和二十二年五月二十日、再刊・七月二十日大學新聞連盟出版部）、『ベンタム・最大多數の最大幸福―個人主義・功利主義の倫理と法理』（昭和二十三年六月二十五日生活社）、『戰爭と平和

の史的分析』（昭和二十四年四月二十五日八雲書店）、『革命と理論・史論』（合著・二十世紀研究所編、昭和二十四年五月二十日思索社）、『現代文明の批判』（合著・思想の科學研究會編、昭和二十四年六月十五日アカデメイア・プレス「思想の科學研究會叢書」）、『マルクシズムに對決するもの―批判と反批判』（合著・河野來吉編、昭和二十四年八月十五日勞働文化社）、『新中國と日本の命運』（編、昭和二十四年十一月一日伊藤書店「常識シリーズ」）、『共産主義への50の疑問』（合著・理論社編集部編、昭和二十六年十月十五日理論社）、郭沫若著『日本國民に訴える―新しい愛國主義』（編譯、昭和二十八年二月十五日三一書房）、『反戰運動の人々』（昭和二十年一月一日青木書店「青木文庫」）等。